

第5期 NBRP・コムギ 第2回運営委員会

議 事 録

日時：2023年8月29日（火）13：00～15：00

場所：京都大学吉田キャンパス 農学・生命科学研究棟 農学専攻セミナー室（1）

及びオンライン回線

出席者：

（1）運営委員

松岡 由浩（委員長）、江花 薫子、川浦 香奈子、川本 祥子、小林 正智、佐
久間 俊、佐藤 和広、佐藤 豊、辻本 壽、土佐 幸雄、半田 裕一、森 直樹

（2）実施者

寺内 良平（課題管理者）、那須田 周平、吉田 健太郎、堺 俊之、太田 敦
士、新田 みゆき

（3）研究協力者

竹中 祥太郎

(4) その他

NBRP 事務局 鈴木 智広

文部科学省 前田 絢香

NBRP プログラムオフィサー／かずさ DNA 研究所 田畑 哲之

NBRP プログラムオフィサー／国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究

センター 小幡 裕一

議長：松岡

書記：新田

【報告等】

(1) 第 5 期 NBPR・コムギ 組織確認 (資料 1)

資料のように確認された。

(2) 2022-2023/2023-2024 年事業計画等の報告

・種子リソース増殖 (資料 2-1、資料 6)

- (p4) 2022-2023 年期中に栽培・収穫した系統について資料のように報告され、
系統更新計画（年間約 500 系統）がほぼ達成されていることが確認された。また、
不発芽等のため増殖できなかった系統（176 系統）については、2024-2025
年期中に再増殖する計画であることが報告された。
- (p5) 2023-2024 年期中の系統更新計画が資料のように報告された。
- (p6-8) 大規模 RIL 集団作成の進捗状況について資料のように報告された。
- (p31-33) Nested association mapping (NAM) 集団作成の進捗状況について
資料のように報告された。
- ・ 種子リソース配布（資料 2-2）

(p9-11) 2023 年度（8 月末の時点まで）の配布実績について資料のように報告された。
- ・ 学会等での活動（資料 2-3）

(p12-13) 2023 年度前半の活動について資料のように報告された。
- ・ 寄託の状況について（資料 2-4）

- (p14-15) 資料のように報告された。
- (3) 2023 年度 NBRP ゲノム情報等整備プログラム採択について（資料 3：非
公開）

(p45-61) 2023 年度「ナショナルバイオリソースプロジェクトゲノム情報等整備」への申請について、採択の通知があったことが報告された。今後の実施予定の計画について説明あった。

- (4) 系統収集関連資料のアーカイブ化について (資料 4：非公開)

(p17-19) 資料のように報告された。

- (5) 系統採集地の緯度経度情報整備について (資料 5)

(p20-21) 資料のように報告された。

- (6) 2022 年度コムギ小委員会 (静岡) について (資料 6)

(p22-24) 資料のように報告された。

- (7) 2023 年度 *Triticum* 属野生種と *Aegilops* 属の穂の外部形態と分類形質についての講習会について (資料 7)

(p26) 資料のように報告された。

- (8) KOMUGI ウェブサイトの利用状況等について (資料 8)

(p37-44) 資料のように報告された。KOMUGI ウェブサイトのレスポンスブル対応を進めるにあたり、コンテンツ整理の時期に来ている。このためワーキンググループを設置して検討することとなった。

- (9) 2023 年度広報活動について (資料 2-3)

(p12-13) 2023 年度後半の活動について資料のように報告された。10 月 12～14 日に、京都大学農学部創立 100 周年記念事業の一環としてのシンポジウム「コムギ研究の新展開:100 年の研究史を反映した生物遺伝資源とゲノミクス、そして未来へ」および「学術探検と遺伝資源－NBPR コムギリソースと田中正武アーカイブスー」の開催による NBPR 活動の周知について報告された。

(10) その他

コムギゲノム配列のアノテーションの進捗についての情報共有があった。

【審議】

(1) 2024 年春の育種学会でのシンポジウム等の企画について

2024 年秋の育種学会でのシンポジウム等の企画を進めること提案され、了承された。

(2) 次回小委員会の開催について

2024 年春の育種学会に合わせて開催することが承認された。今後、ムギ類研究会に合わせて開催することが提案され、検討することになった。

(3) その他

なし

【その他】

国際的な学会や会議（Plant and Animal Genome Conference や International Wheat Congress）での広報活動を検討することとなった。また、Wheat Initiative の Expert Working Group へ積極的に参加することの重要性について指摘があり、コミュニティとして対応を検討することとなった。

以上